

メキシコ自動車産業本格稼働の時代 日系企業進出”人材戦略”をどう練るか

キマタパーソネル社長
木全健一

1. 米国の景気動向

米国の失業率は6.7%と2009年以来少しずつ下がり続けている。全体的には力強さに欠けたまま景気回復が続く。

筆者の印象では、繁華街にはかつての賑わいが戻っているように思う。

日系企業では自動車及び機械産業は力強い景気回復が続く。

また明るいニュースが一つ、アジアでの製造を切り上げて米国での製造を復活させる傾向があることである。特に米系日系問わず、オハイオ州への投資が活発な様子である。

2. 日本の景気動向

昨年から続く円安傾向にもかかわらず期待したほど輸出が伸びることはなく、燃料資源を中心にした輸入が急増し、遂に日本は貿易赤字に転落した。

円高を諸悪の根源としていた日本経済は大きな転換期に達した。逆に、円高の時代に海外に大規模な投資をした企業は大きなメリットを得るだろう。

人口減少が本格化し、移民政策が正念場になるだろう。

3. 給与動向

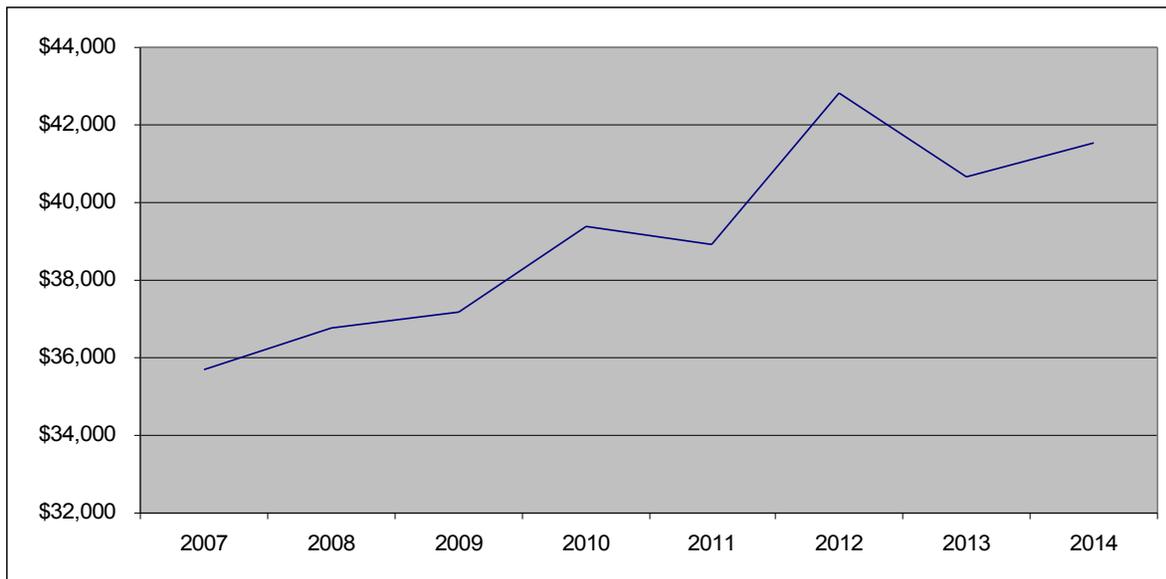
主要なポジションの平均給与額を示す。

中西部の給与水準は全国平均よりかなり低い。

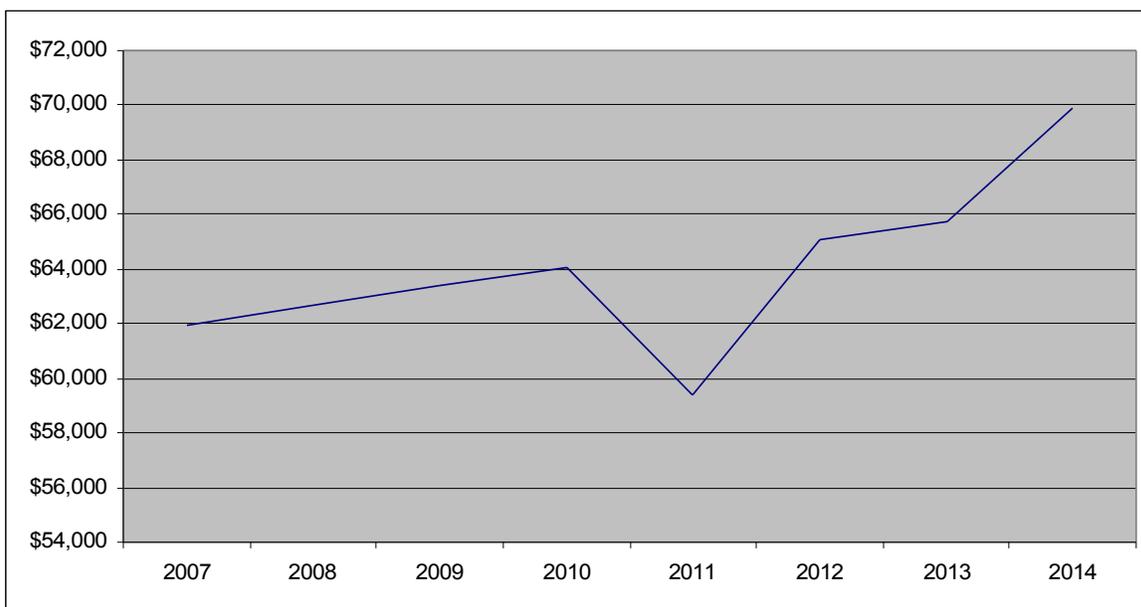
景気回復に伴い、殆どのポジションではほぼ物価上昇分レンジの昇給になっているようである。

尚データは、(株)日経リサーチが実施した「在米日系企業における現地スタッフの給料と待遇に関する調査」の調査結果を元に作成しており、前年の支給額実績を示している。

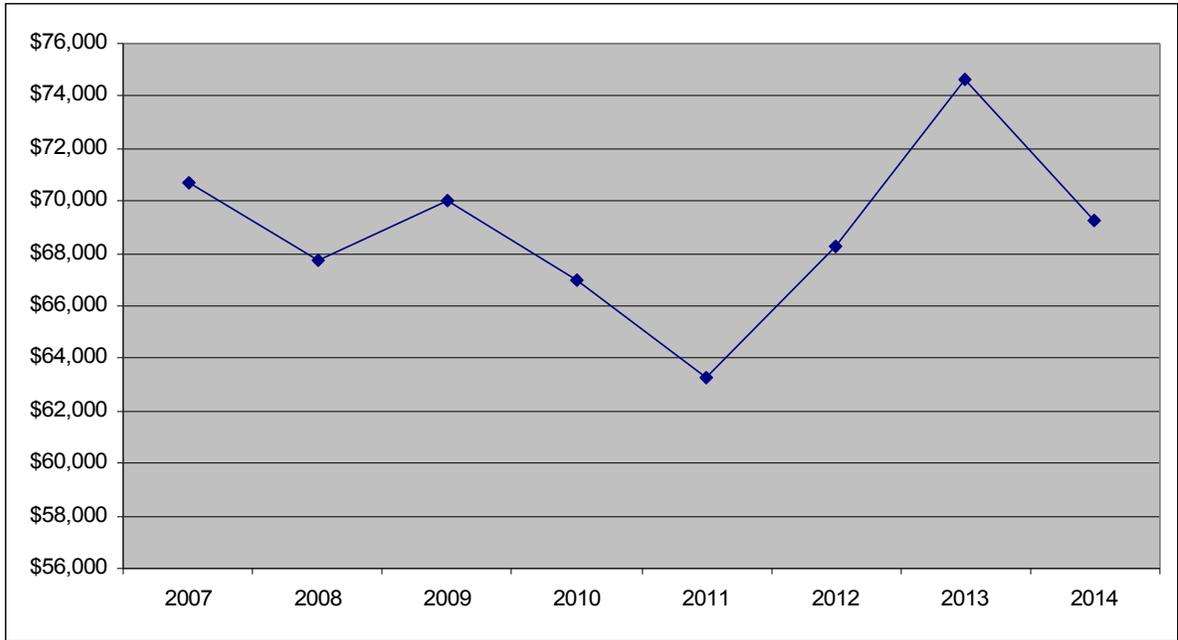
1. Accounting assistant



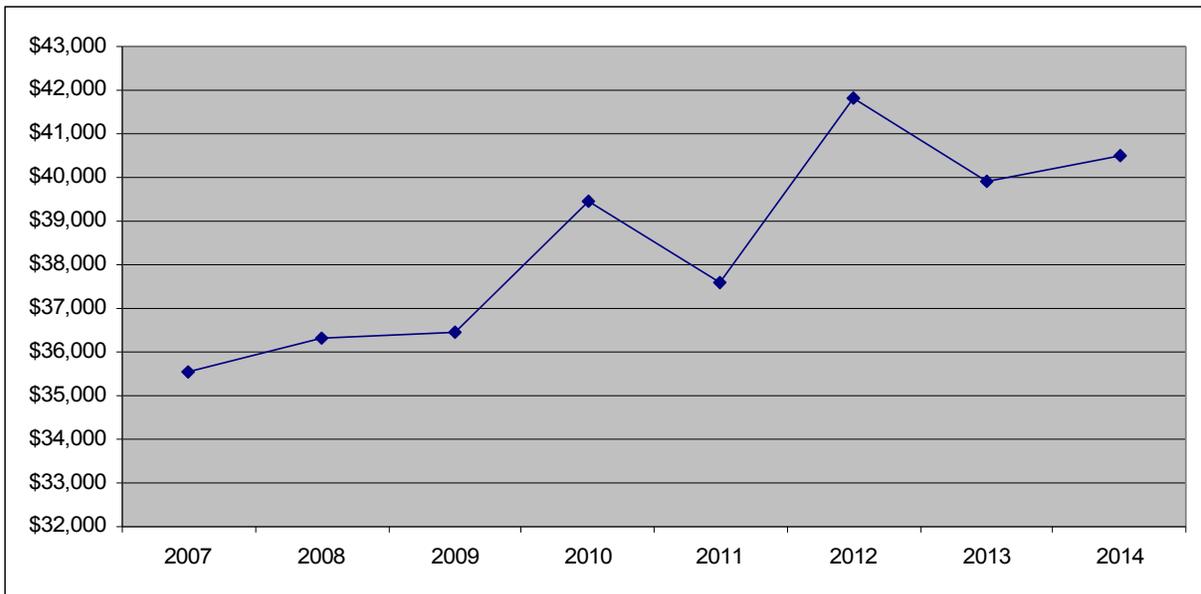
2. Mechanical engineer



3. Electric engineer



4. Administrative assistant



4. メキシコ自動車産業業本格稼動へ

今年の1、2月に、メキシコ__グアナハト州における大手自動車メーカー各社が本格稼動の時代に突入した。

欧州系や日系大手の参入もまだまだ続いており、メキシコは韓国、ブラジルを抜いて世界第4位の自動車生産国になる見込みである。

メキシコビジネスについて、弊社調査に基づいた注意すべき点を挙げる。

A) 治安面

大変残念なことに、日本人出張者の殺到するバヒオ地区にて車荒らしの被害件数が急増している。これは、パソコン、現金、パスポート等の貴重品を車の中に残して食事をしている間に、窓ガラスが割られたり、トランクがこじ開けられたりするケースである。

コンビニで水を買っている僅かな時間に被害にあうケースもあり、貴重品は必ず身につけることである。

B) 人材確保

メキシコは優秀な人材の宝庫である。特に工場用地を無料で提供し、工場ワーカーを無料で手配してくれるグアナハト州では日系自動車メーカーが殺到し、昨年だけでも100社以上が進出した。

その反面、日系人や日本人が非常に少ない国であることはくれぐれも留意すべきである。日本政府のバックアップによる大規模な日本人の入植は無かった国柄である。

筆者の印象では、メキシコと人口の一割が日系人といわれているブラジル=サンパウロとのイメージが混同している面もあるように思う。

また、工場建設のプランは綿密に立てるものの、人材確保という点では白紙のままに来るケースが殆どである。工場は金さえ払えば

建つが、特に通訳のような特殊な人材確保はそうはいかないことになかなか気づかないケースが多く、メキシコビジネス戦略のネックになっている。

c) 人材戦略

大手メーカーとサプライヤーの操業開始に伴い、ロジスティック／物流企業、自動車部品商社などのサービス部門企業の進出が急増している。

しかし、仕事よりも家庭が大事とする保守的な国民性のメキシコでは、特に外回りの営業で優秀な人材を確保するのが大変に困難である。サービス部門では自動車メーカーのようにメキシコビジネスの優位点を全て享受することはできないと思ったほうがよい。

また、スペイン社会の階級社会の弊害が色濃く残っている点を理解するのも困難であることは誰もが経験している。マネージャーの肩書きのある人材は、部下を管理するのが仕事であり、実務はあまり出来ない、やらない“貴族的”人材であると心得るべきである。

優秀なマネージャーを雇えば“丸投げ”で何でもやってくれるという日本式経営から生ずる“誤解”が根強く、特に会計マネージャーでは苦勞させられているケースが多い。

5. 弊社の取り組み

メキシコ人はアジア系の原住民を先祖に持ち、意外なことにアジア人に近いメンタリティーを持っているというのが筆者の印象である。厳格な階級社会を持つ欧米系企業と違い、経営者と現場の労働者が一体となって働く日本式経営もメキシコ人には人気が高く、メキシコと日本は最良のパートナーシップを築くことができるはずである。

弊社では人材斡旋のみならず、異文化理解セミナーを開催している Japan Intercultural Consulting 社と提携し、メキシコビジネスの盲点になりがちな人材戦略のサポートに取り組んでいる。

<http://www.japanintercultural.com/>

出典：

株式会社日経リサーチ

「在米日系企業における現地スタッフの給料と待遇に関する調査 2014」